

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700527		
法人名	医療法人 吉誠会		
事業所名	グループホーム菜の花	ユニット名	2号館
所在地	宮崎県都城市高城町穂満坊496-3		
自己評価作成日	令和2年6月24日	評価結果市町村受理日	令和2年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が笑顔で楽しく日々を過ごし、ご家族が安心して預けることの出来るケアに取り組みながらゆとりある生活を送れるよう心掛けています。季節を感じる事が出来るよう散歩や外出の機会を設け、行事や誕生会を計画しイベントへの参加をして頂くことで生活に楽しみやメリハリをつけていきます。地域の方に施設の行事に参加頂いたり、地域の行事にこちらが参加することで交流を深めています。併設したクリニックと医療連携を取ることで医療が必要となった時、迅速な対応が行え入居者やご家族のもの安心へとつながっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体に持ち、同敷地内に病院やクリニック、介護老人保健施設があり夜間帯を含む緊急時の対応や防災時の協力を図っている。地区や近隣学校など地域の行事に参加するなど地域交流に努めている。利用者や家族の思いや意向の把握に努め、チームで介護が実践できるように定期的に職員間でアイデアや意見を出し合っている。法人内や地域、職員間の連携を図り、利用者一人ひとりの尊厳が確保されるよう馴染みの関係継続や日常生活の中に楽しみを感じながら生活できるよう環境づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「な・の・は・な」の4文字を頭文字とした理念を元に定期的な会議を行い理念に沿ったケアが来ているか確認している。		理念については各館と職員休憩室に掲示してある。内容については職員全員で話し合い実践につながるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を行う際は学校ボランティアの方の協力を貰いながら交流を深めている。納涼祭では地域の方に店の手伝いを頂いたり、地区祭りのサポートを行う事で更なる交流を行っている。		ホームでの行事開催の際、地区の+F8:F19公民館長や学生ボランティアなどの協力、参加があり地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事で施設へ来苑された際、施設の見学や認知症の方の対応方法の説明をするなど施設の紹介を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に一回奇数月の第4火曜日に実施。地域の方や入居者・ご家族を交えながらホームでの活動や運営について報告話し合いの場を設けている。		運営推進会議の話し合いにて区長の助言により学校へ学生ボランティア募集を呼び掛けるなど、そこでの意見をサービスの向上に生かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点や相談事がある際はその都度連絡し相談に乗って貰いたく確かなアドバイスを頂いている。		運営推進会議に行政の担当者の参加があり、情報交換などできるよう協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に近い環境にあり外出傾向の方の安全確保の処置として基本施錠を行っているが、精神的に落ち着いている時は屋外に出られるような環境作りに努めている。		身体拘束について月1回の業務会議を活用し勉強会を行い、日頃から意識できる環境づくりを心掛けている。外出傾向のある方に対して、家族の協力をもらいながら外出や外泊の機会をつくるなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止講習会や研修への参加、実際に起きてしまった事例やそれに対する予防について学び、スピーチロックなど現場での予防に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者はいないが、研修の機会があれば参加するようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者が退居が必要な本人の家族に対し、十分な説明を行い同意を得、納得した上で署名・捺印を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内に意見箱を設ける。運営推進会議や面会に来られた際、家族や地域の方に意見を頂き、それを議題として職員間で話し合い運営に反映している。	家族から意見や要望の言いやすい環境づくりに努めている。意見などは職員会議や回覧などで情報共有を図っており、ケア見直しの気づきに繋がっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に業務会議を開き、介護スタッフやケアマネ・医療連携ナースがそれぞれの意見を出せる場を設けている。ユニットごとの会議も同様。不参加者は議事録を確認し情報の共有を行っている。	業務会議やユニット会議を定期的に行い意見交換の機会となっている。そこでの意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な会議を行い、意見や提案を聞いている。個人評価・企業評価・面談を行い職員個々の評価に対しキャリアアップが出来るよう職場環境の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修がある際、職員に受ける機会を設け、働きながら職員同士で介護についての意見交換を行うことを勧めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会研修やグループホーム地域ケア会議に参加し、交流・意見交換の場を設けることでサービス向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成者・ケアマネが調査の段階で顔を覚えてもらえるようにコミュニケーションを通じて安心して貰えるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の調査や当日でのカンファレンスで少しずつ関係がつけられるように家族や本人の言葉に耳を傾けながら関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴や意向・希望を出来る限り取り入れられるように他職種と連携を取りながら対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの気持ちに寄り添いながら少しずつ近づけるように時間を共有することで支えあう関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にてご家族に入居者の生活状況を伝え常に情報共有しながら関係を築いている。不穩が続く際電話でご本人と会話して貰うなどご家族にも協力頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会を通して行きつけの散髪屋へ行ったり親しい人との時間を過ごしてもらえるようにしている。	入居後も馴染みの関係が途切れないよう、整骨院に送迎するなど支援している。また、親族の訪問の受け入れなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどでスタッフが間に入りながら交流することで他者との関わりの機会を増やせるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談員を始め、ナース・ケアマネを含め相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に話を聞きながら希望や意向などを計画書の課題に取り入れたり日々の生活に取り入れている。		家族の意向を計画書第1表に直筆で記入してもらっている。面談が困難な場合は電話で定期的に確認し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や後に家族や本人とのコミュニケーションの中から聞き取り、職員間で情報共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や本人、関係者より聞き取り行いアセスメントや日課表を作成している。体調に変化がある場合、医療連携ナースと連携を取りながら対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやスタッフとのモニタリングの中から出たアイデアや意見を取り入れ、本人の為のより良い介護計画につなげている。		計画書の目標に対して月に1回評価を行っている。ケアのあり方について職員で話し合い、アイデアを出し合うなどして改善につなげるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録記入を徹底し毎日の申し送りや月一のモニタリングで共有しているモニタリングから計画の見直しへ活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な方には家族やケアマネなどと相談しながら整骨院や病院、リハビリ(専門医より)を取り入れている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の中学生に行事に参加してもらい、一緒に会話をしたり補助を手伝って頂いている。理容・毛染めは近隣の美容室へお連れしたり、訪問して頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が他の所の場合や他受診時はDrや家族に相談し協力をもらうことで受診出来ている。	利用者の3割程度は入居前からのかかりつけ医が継続されているが、夜間などは法人医療機関の支援がある。受診の際は基本的に家族が対応し、生活の様子は職員が情報書を作成するなどして受診支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ナースとも情報共有し必要な指示・対応をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師や医療連携Nsを通じて情報交換を行い、スタッフも病室に顔を見に行くようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネ・Ns・Dr家族を中心にこまめにカンファレンスを行い、治療方針を共に共有し支援に取り組んでいる。	看取りについては入居時に利用者・家族に指針の説明と同意をもらっている。看取りの対応について医療連携看護師が関係者と調整を図り利用者や家族、職員に負担のないように配慮している。また、週1回の頻度で家族を交えたカンファレンスを行い、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルから各自学び全体で確認したり、勉強会の場で初期対応や応急処置についてNsより指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い避難経路の確認や、消防への連絡方法・消火器の使用方法を身につけている。	夜間帯と昼間を想定した消防訓練を業者に委託して実施と評価をしてもらっている。また、併せて消防設備点検も行っており、火災に備えている。敷地内の同法人施設とともに備蓄しており事業所間の協力体制の構築に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った言葉遣いを使い分けてコミュニケーションを取っている。		居室のドアにはプライバシーを確保するためカーテンをつけている。また、ドアを開けることで安心する利用者に対してはのれんを付けて配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示や自己決定力のある方には最終的な決定を本人に委ねている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて個々のスケジュールを組み、本人の希望に沿った支援が出来るようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に来苑して頂き髪染めやカットを定期的に行っている。洋服をご自分で選んで頂いたりもしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が苦にならないような声掛けをしながら職員も同じ食事を摂っている。それぞれの咀嚼・嚥下状態に応じた食事形態を準備し対応している。		準備や片づけなど、食事の一連の作業を利用者が関わることで、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べて頂く様な声かけを行い水分が飲めてない方にはジュースや他の飲み物を提供して少しでも飲んで頂く様に心がけている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で困難な方に対しては専用の拭き取りで口腔内を清潔に保てるようにしている。夕食後は義歯を外し入れ歯洗浄剤に毎日浸けている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々に合わせ定期的な声かけ・誘導を行いトイレでの排泄を促している。		可能な限りトイレで行えるよう誘導している。夏場は皮膚トラブルも考慮し布パンツへ切り替えこまめに声をかかえるように心がけている。利用者の自尊心に配慮しながら、排せつの自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便促す為、腸の働きを良くする乳製品・食物繊維のある食べ物等を提供・自然排便が難しい場合個々の合わせた下剤を使用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきに入浴しているが希望のタイミングでも入浴出来る様になっている。個々のお湯加減に配慮し季節に合った入浴剤を使用しながら入浴の楽しみにつなげている。乾燥時期には保湿ローション・皮膚トラブルには軟膏布し対応している。		入浴の拒否がある場合は声かけの時間帯や職員を変えて対応し、場合によっては曜日を変更している。季節感を感じる入浴剤を使用し入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時期に応じて個人ごとに居室の温度調節を行っている。夜間帯の居室の電気を豆電球にし、トイレで起きた際に転倒しない様配慮している。個々の身体状況に応じてベッドの高さ調節、マットを使用する等対応し安眠へとつながる様支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に間違いのないかの確認、ご本人への手渡す際名前・内服の確認を行っている。薬の苦手な方へはオブラート使用・自立摂取出来ない方へは介助を行い病状の把握に努めている。内服薬の変更があった際、経過観察スタッフ間で情報共有し医療連携ナースへ状況報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションや脳トレドリル活用、行事参加や外出等で気分転換を図っている。お膳拭き・新聞たたみ・洗濯たたみ等個々の能力に応じた作業を行う事で生活に張り合いを感じて頂く。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事見学にて外出、季節を肌で感じたり気分転換につなげている。家族の協力を頂き外出や外食にも行かれている。		敷地内に畑があり、野菜収穫や水やり、草抜きなど日常的に外出している。そのほか、利用者の希望に沿って洋服やカバン購入のため職員と外出するなど外出の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人に「何か欲しいものや足りないものはないですか?」と確認し希望があればスタッフが購入する。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から「電話をして下さい」などの訴えがあった場合はスタッフが連絡しその後で代わって頂きお話をされている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内のテーブル上には花瓶などを置き季節を感じていただくように配慮している。	利用者と職員の共同作品や写真が飾っており温もりがある雰囲気づくりに努めている。また温度や湿度が利用者目線で管理されており居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おやつの時間など利用者様同士で会話をされることがほとんどないのでスタッフが間に入り話題づくりをしている。入居者間の関係も考慮し自席の位置も決めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族との写真や手紙などを置き心地よく過ごしていただいている。	利用者の使い慣れた洋服がけや整理ダンス、写真などが持ち込まれ利用者が居心地よく生活できるように配慮されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人でトイレへ行かれる方は転倒防止の為にセンサーを設置して見守りを行っている。個人の身体能力に合わせた福祉用具やサポートを行うことで自立した生活が送れるよう対応している。			